



左腕にタカを乗せる田中さん

ふるさと

ねやがわ

伝統的な仕事誇りに活躍

鷹匠（たかじょう）

たなかかずひろ

田中和博さん(48歳)

第27回

私とふるさと

今は大東市に住んでいますが、寝屋川市には北小学校を卒業するまでいました。高学年のときはお笑いの世界で活躍されている海原とも同じクラスで仲良く、今も応援しています。

最寄りの香里園駅前にあったスーパーにもよく出かけ、ガード下などでも遊んでいました。

100円玉を握りしめてお菓子やおもちゃを売っているお店に行くのが楽しみでした。たこ焼きも6個で100円でした。

「害鳥駆除の依頼は年々増えていきます。カラス退治は週に1回3時間程度活動。一度だけでは効果がなく、1か月から3か月間、定期的に飛ばしてカラスに危険な場所だということを認識させます」。ペランダの洗濯物が汚れるなどハトのフン害も深刻です。「なかなか手ごわい相手で、ネットを張っても思うように被害が減ら

ず、タカによる駆除の依頼が来るようになりまし

「鷹匠にならないか」。害鳥駆除などを行う知人の社長に誘われたのは5年前でした。タカの飼育や訓練を担う鷹匠の歴史は古く、それまで工務店などに勤めていた田中さんは「今もそんな職業があるなんて」と驚きましたが、すぐに「面白そうな

「害鳥駆除の依頼は年々増えてい

同じ猛禽類のフクロウの出番もありますが、調教しているためカラスやハトを威嚇するだけで襲うことはありません。それでも「狩猟が解禁されると実際に狩りをさせ、野生の本能を忘れないようにしています」。

「鷹匠にならないか」。害鳥駆除などを行う知人の社長に誘われたのは5年前でした。タカの飼育や訓練を担う鷹匠の歴史は古く、それまで工務店などに勤めていた田中さんは「今もそんな職業があるなんて」と驚きましたが、すぐに「面白そうな

「害鳥駆除の依頼は年々増えてい

同じ猛禽類のフクロウの出番もありますが、調教しているためカラスやハトを威嚇するだけで襲うことはありません。それでも「狩猟が解禁されると実際に狩りをさせ、野生の本能を忘れないようにしています」。

「そんな仕事があるなんて」 サラリーマンから転身

ある日の午後、田中さんは生活ごみなどを処理する寝屋川市のクリーンセンターにいました。鋭い眼光の相棒は、2歳になるメスの「咲(さき)」。

「人馬一体」ならぬ「人鷹(じんよう)一体」の関係を深めるため、自宅で3羽のハリスホークを飼い、目の動きなどでその日の調子をつかめるようになりまし

お殿様の狩りにお供した鷹匠。時代は変わり、米国産のタカの種類「ハリスホーク」を自在に操る田中 and 博さんは、カラスやハトの害鳥を追い払う「現代の鷹匠」として飛び回っています。

「食事中も一緒でした」
タカとの信頼関係築く



タカを放つ田中さん

鷹匠とは

江戸時代には天皇家や大名に仕えてタカを飼育、調教し、鷹狩りに同行しました。訓練の方法などによって流派があり、伝統的な技術を今に伝えています。最近では害鳥を追い払う仕事としても注目され、女性や高校生の鷹匠も誕生しています。

「鷹匠とは」

